



## モンゴルフィールドワークⅡ



エイジハット (中央の青い部分が母の石)



バヤンツァガン村のゲレルさんのゲル

8月3日、いよいよフィールドワークの開始です。目ざすはモンゴル中央県のソクソール・バヤンツァガン村です。ウランバートルから160kmの距離ですが、ここに行くのは想像以上に困難です。360度一面の草原の中に目印はありません。何もない草原の中では方位も分かりませんし、まっすぐ進むこともできません。南へ向かっているはずが、いつの間にも西へ、そしてまた南へ・・・、この繰り返しです。また砂ぼこりと延々と続くデコボコ道で体も車もヘトヘトです。

ウランバートルと隣村との境界に「オボウ」というものがありました。これは、天の神と地の神の接点に位置する神様だそうで、石やお金を投げ込んで右回りに3回まわり旅の安全などを祈願します。さらに草原の中を進むと、たくさんの平らな石をくさび状に打ち込んだ荒涼とした地がありました。この石はすべて昔の墓で、ここだけは緑の草原ではなく岩ばかりの荒地で、まさに死者の谷といった感じです。

この谷には「エイジハット」という祈願所もありました。ゲル(モンゴルの円型テント)を表した境内には「母の石」と呼ばれる人の形をした花崗岩(かこうがん)が置かれ、その耳の部分に願い事をして3回右回りに回ります。モンゴルでは卒業祈願に来る人が多いそうです。最初は岩だけでしたが、1935年には髪の毛も付けられ、胸や耳もあります。境内入口の左右には母の家具やベッドが奉納され、その奥には母の好きな茶がいぶされていました。周辺を調べてみると墓壇(きだん・寺院等の柱跡)があったので、恐らくここは、1921年の社会主義革命以前には寺院があったと思われます。それが革命時に破壊され、その後「母の石」として姿を変えたのではないのでしょうか。

バヤンツァガン村ではアルタン・ゲレルさんを訪ねました。ゲレルさんはハルハ族の50歳になる馬頭琴の名手です。3年前に兄から譲り受けたという馬頭琴で次々と演奏してくれました。馬頭琴によるソロも大変素晴らしかったのですが、彼の二人の息子さん達によるオルティンドーという民謡が、何ともいえず郷愁をおび、なつかしさを感じさせるものでした。その民謡は、妻が夫を慕って歌うものや自分の馬を自慢するような歌詞でした。このようなモンゴルの民謡は、どれも節回しが日本の民謡に何となく似ており、私は昔祖母が歌ってくれた懐かしい故郷の歌を思い出しました。(O.G)

# 事業報告

## ■レクチャーコンサート「打楽器東西比較考～西のリズム・東のリズム～」

10/18 (土) 14:00～16:00 研修交流センター21音楽セミナー室

出演：北野徹さん(大阪音楽大学助教授)，パーカッション・グループ大阪

テンポは決められた大きさの箱の中に入るリンゴの数，リズムはそのリンゴの切り方，日本人はようかんを切るような上から下へのリズム感，ヨーロッパ人は地面から上へ上へと跳ね上がるような丸いリズム感，細かい音譜はことばに置き換えるとうまく演奏できる，聴衆を巻きこんでバリ島のケチャならぬタヌキのケチャとサンバ・ブラジル等々，北野氏のユニークなリズム論とテンポ論で，聴衆は笑い感動の連続。

加えて，パーカッション・グループ大阪の緻密なマリバ・アンサンブル，博物館所蔵のアジア・アフリカの打楽器を駆使しての繊細な音空間，金属製打楽器をバチ類を一切使わず指だけで演奏する北野氏のソロ，和太鼓や遠州大念仏の桶胴他日本の楽器によるアンサンブル等々，打楽器のすばらしさを発見し体感した，あっという間の2時間でした。



レクチャーコンサート「打楽器東西比較考」

## ■企画展「世界の太鼓」

9/30 (火)～10/26 (日) 楽器博物館第3展示室

太鼓はあらゆる楽器の中でおそらく最も広域に分布し，その形の種類や用途も非常に多岐に渡っています。本展ではそんな「太鼓」を取り上げ，その形態的な特徴や構造，演奏方法等を紹介し，人間と太鼓との関わりについて考えてみました。展示品の一部には東京・浅草の太鼓館より，スペインの四角型太鼓パンデロ・デ・ペーチョや中米トリニダードトバコのスチールドラムなど貴重な楽器や演奏風景写真をお借りしました。また体験コーナーも設け，ボンゴ，コンガ，サイド・ドラムなどを子供たちが楽しそうに演奏していました。

## ■小展示「馬頭琴の国モンゴル～モンゴルフィールドワーク速報展～」

11/15 (土)～12/26 (金) 楽器博物館第3展示室前室

本展では今年8月に行ったモンゴルフィールドワークで収集した楽器の一部を紹介しました。展示品にはモンゴルの代表的な楽器，馬頭琴をはじめラマ教で使われるダマルという頭蓋骨製振鼓やガニランという大腿骨製ラッパなど大変珍しいものが展示されました。また楽器以外にも取材中に現地の方からいただいた日用品や写真を展示し，ビデオも放映しました。これらの資料は今後調査研究をし，いずれ皆様にその成果をご紹介したいと思います。来館者はモンゴルの広大な草原の風景に驚いていたようでした。

## ■講座 シリーズくらしと楽器

「知恵の器としての楽器～アフリカの視点から～」

講師：塚田健一さん (広島市立大学教授)

10/26 (日) 14:00～16:00 アクトシティ浜松研修交流センター401会議室 参加者29名

「話し太鼓」の構造や演奏法，また楽弓より様々な形の弦楽器へと「成長」していく例に，人間の知恵を探りました。



講座 知恵の器としての楽器

「モンゴルの自然と暮らしと歌」 講師：松下唯夫さん (大阪外国語大学教授)

11/29 (土) 14:00～16:00 アクトシティ浜松研修交流センター401会議室 参加者39名

モンゴルの大自然の中での人々の暮らしと，その中で息づく音楽についてビデオを交えて考察しました。

## ■セミナー 楽器の中の聖と俗

「水琴窟とシシ威し」 講師：西岡信雄さん (大阪音楽大学教授)

11/1 (土) 14:00～16:00 アクトシティ浜松研修交流センター401会議室 参加者41名

水琴窟とシシ威しについて実際の音とイメージとして作り上げた音の違いを比較し，日本人の音響空間について考えました。

## フィールドワーク旅行記Ⅱ

モンゴルといえば果てしなく広がる大草原を思い浮かべられるでしょう。しかしそこには我々の知らない未知の世界も果てしなく広がっています。ここでは前号に引き続きモンゴルにまつわる豆知識を紹介します。

- ・総人口230万人のうち、30歳以下が70%を、16歳以下が40%を占める世界でも有数の若い国。
- ・我々を案内してくれた国立大学の学長は30歳代、通訳の日本語科教授も26歳であった。
- ・伝統的な文化・芸術が擁護される一方、若者が多いため新たな文化も次々に作られる。その熱狂ぶりはモンゴル新時代を感じさせる。
- ・1992年の民主化以降、西欧の音楽が急激に流入。現在、若者はロックやディスコに夢中。
- ・まだカセットテープが主流だが、デパートでは高価だがCDもある。以下は今年8月にヒットのアルバムとその感想。

**Saraa**・*The Best of Saraa*：モンゴルで最も人気の女性ボーカル。スローバラードからアップテンポな曲までジャンルを問わない抜群の歌唱力とさわやかな歌声が特徴。モンゴル版松田聖子といったところか。

**CAMERTON**・*18 YEARS*：現在、モンゴルで爆発的人気の男性4人組のバンド。ルックスもよく、その素晴ら

しい歌唱力は日本でも充分通じるはず。曲の雰囲気はミスターチルドレンに似ているかも。

**BLACK & ROSE**・*GREAT & DESTROY*：その名から察するとおりモンゴルを代表するハードロックバンド。シンセサイザーによる不思議な音色等、これまで聞いたことがないこれらの音楽に若者は強烈な衝撃を受けた。

- ・民主化以降テレビ放映も自由化され、ウランバートルではアメリカのCNNや中国の番組が見られる。
- ・衛星放送が見られる家ではNHK-BSも見られ、大相撲での旭鷲山の取組や朝の連続テレビ小説は特に人気。
- ・中国と同様モンゴルでも安室奈美恵は大人気で、8月には「Can You Celebrate?」がヒット中。(T.S)



左からSaraa, CAMERTON, BLACK & ROSE

## 収蔵資料の紹介

### ■スピネット

名前の由来は「とげ」の意味を持つラテン語のspina（スピーナ）からとも、人名G.Spinetti（スピネッティ）からともいわれています。家庭用の小型鍵盤楽器として、17～18世紀のヨーロッパで広く流行しました。音の出るしくみはハーブシコードなどと同じで、鍵盤を押すと爪が弦をはじくようになっています。スピネットという名前はこのような形を持つ小型鍵盤楽器の総称として使われていた時期もありますが、当館では写真のようにちょうど翼のような形をしたもの（弦が鍵盤に対して斜めに張られているもの）をこの名前と呼んでいます。

展示室には2台のスピネットがあります。どちらもロンドンにおいて製作されたもので、外見は似ていますが、鍵盤を見てみると製作時期による特徴の違いがよくわかります。まずは鍵盤の材質から。S.キーン作のスピネット（写真）にはいわゆる「黒鍵」に象牙が、「白鍵」に黒檀（こくたん）が使われていて、現代のピアノをイメージした時ちょうど白黒逆転したようになっています。もう1台のスピネット（J.ハリス作）では、「黒鍵」が黒檀、「白鍵」が象牙なので前出のものとは全く逆です。次に音域を見てみましょう。キーン作のスピネットには、低音部（演奏者から向かって左側）に「ブロークン・オクターヴ」と呼ばれる2分割された「黒鍵」がみられます。これは、少ない鍵盤数でより広い音域をカバーするための工夫の一つで、本来の音域BB～d3の低音側にさらに低い2音（AAとGG）を加えています。ハリス作のものには「ブロークン・オクターヴ」がありませんが、9鍵多い61鍵になり、音域もGG～g3に広がっています。

この2台のスピネットの間には約50年の歳月が流れています。ちょうどスピネットという楽器が変化していく過渡期にあたっていますので、この様に比較してみるといろいろな発見がありおもしろいかもしれません。(I.N)



スピネット（S.キーン作、18世紀初期、ロンドン）

# これからの事業スケジュール

事業名	開催期間	内容
調査中間報告会「浜松楽器風土記」	1/24(土) 14:00～	身近な楽器「鈴」について考察します
小展示「ヨーロッパの中世とルネサンス」	1/29(木)～3/1(日)	中世・ルネサンスに使われた楽器とその社会背景を紹介します
平成9年度新着資料展	1/29(木)～2/22(日)	本年度に収集したり寄贈された資料を紹介します
講座 シリーズくらしと楽器 「中世・ルネサンス音楽を聴く楽しみ」	2/7(土) 14:00～	中世・ルネサンスの人々と聖歌との関連について考えます
レクチャーコンサート「ヨーロッパの中世とルネサンス」	2/21(土) 14:00～	中世・ルネサンス音楽の演奏と解説です
調査中間報告会「県内の芸能」	2/28(土) 14:00～	北遠(佐久間, 水窪)の伝統芸能について考えます
特別展「シンボルとしての楽器」	3/24(火)～5/10(日)	楽器とそれが奏でる音楽が持つ「象徴性」にスポットをあてます
展示室ガイドツアー	毎月第2日曜日	学芸員が展示品の解説をします
ミュージアム・サロン	毎月1回 日曜日	学芸員による楽器文化ワンポイントミニ講座です

## 10月～12月までのあゆみ

9/30(火)～10/26(日)	企画展「世界の太鼓」	
10/12(日)	展示室ガイドツアー「鍵盤楽器の歴史」	
10/18(土)	レクチャーコンサート「打楽器東西比較考」出演：北野徹さん	
10/19(日)	ミュージアムサロン「ダブルリード・ユーラシア大陸横断」	
10/26(日)	講座 シリーズくらしと楽器「知恵の器としての楽器」講師：塚田健一さん	
11/1(土)	セミナー 楽器の中の聖と俗「水琴窟とシシ威し」講師：西岡信雄さん	
11/9(日)	展示室ガイドツアー「弦鳴楽器」	
11/15(土)～12/26(金)	小展示「馬頭琴の国モンゴル～モンゴルフィールドワーク速報展～」	
11/29(土)	講座 シリーズくらしと楽器 「モンゴルの自然と暮らしと歌」講師：松下唯夫さん	10～11月の観覧者数
11/30(日)	ミュージアムサロン「ハーブシコードからピアノへ」	大人 個人 10,446
12/6(土)	セミナー 楽器の中の聖と俗 「日本の民俗音楽—チンドン」講師：西岡信雄さん	大人 団体 2,316
12/13(土)	レクチャーコンサート「スーホの白い馬～草原の風・ モンゴルの馬頭琴～」出演：リポーさん	中人 個人 150
12/14(日)	展示室ガイドツアー「音の高さを変える工夫」	中人 団体 80
12/21(日)	ミュージアムサロン「尺八の科学」	小人 個人 1,842
		小人 団体 1,253
		幼児 381
		合計 16,468

## 利用案内

開館時間：火曜日～日曜日 午前9：30～午後5：00

休館日：月曜日（祝日にあたる時は開館）、祝日の翌日、年末年始、  
その他資料整備等のために定める日

—祝日前後の開館日については、変更することがございます  
ので当館にご確認下さい。—

観覧料：	個人	団体(20人以上)	団体(80人以上)
大人(大学生以上)	400円	320円	240円
中人(高校生)	200円	160円	120円
小人(小・中学生)	100円	80円	60円

※館内には、貴重品以外のお荷物は持ち込みできません。

浜松市楽器博物館だより

1998年1月5日発行

No.10

編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108-1

TEL 053-451-1128

FAX 053-451-1129

印刷 株式会社 シバプリント